審査意見への対応を記載した書類（６月）

（目次）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

【教育課程等】

１．設置の趣旨等を記載した書類（本文）の４（１）に示されている本研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）２では「実験、調査、文献クリティーク等で得た知識を『ゼミナール方式』で展開」するとなっており、シラバスにおいても「コミュニティヘルスケア概論 A」など複数の科目でディスカッションや議論を行うといった記載があるが、1名の入学定員で「ゼミナール方式」を実施することは困難であると考えられる。このため、カリキュラム・ポリシー及びシラバスの妥当性を説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（改善事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

２．設置の趣旨等を記載した書類（本文）の４（１）に示されている本研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）４において、「地域・国際社会で活躍できる資質を涵養する」とあり、設置の趣旨等を記載した書類（資料）資料７で CP４に関連する授業科目として示されているものは「国際・地域特別実習」のみとなっている。しかしながら、同科目のシラバスにある授業概要はフィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップの実施を通じて、地域の課題の観察と課題解決のための方策を考えることとなっているが、実施機関が地域や分野ともに幅広く、実施内容も学生が自主的に打ち合わせることとなっていることから、実習内容についての本学の関与について説明がないため判然とせず、CP４を達成できるような実習内容を確保できるかについて疑義がある。さらに、一人一人の学生に応じた実習内容や実習の時期・期間の決定プロセスについても説明がないことから、カリキュラム・ポリシーを踏まえた授業科目や教育内容が、本研究科の教育課程において適切に編成されているか疑義がある。このため、CP４に基づいた授業科目が適切に配置されていることについて明確に説明するとともに、シラバスを含めた関連する記載について必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（是正事項）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

の趣旨等を記載した書類（資料）資料６において、当該カリキュラム・ポリシーに紐づく科目の説明がある。しかしながら、当該カリキュラム・ポリシーに紐づく科目（「コミュニティ ヘルスケア概論A」「コミュニティ ヘルスケア概論B」「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」「医療と多文化共生特論」）のシラバスを見ても、基礎医学、保健学、人間医工学以外の看護学や人間情報学に関する内容が授業内容に反映されていないと見受けられる。したがって、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を確実に修得することができる教育課程が適切に編成されているか疑義があることから、上記ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身につけることができる教育課程となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（是正事項） ･････････････････････ 21

【入学者選抜】

４．設置の趣旨等を記載した書類「９（３）選抜方法」によれば、一般選抜等では「修士論文の写し又はこれに準ずるもの」の提出を受験生に求めているが、社会人特別選抜では求めていないことから、社会人特別選抜では修士課程を修了していない学生の受入れを想定しているものと見受けられる。学校教育法（昭和22年文部省令第11号）第156条第６号の規定により、修士の学位を有さない者が博士課程に入学するためには、「修士の学位を有する者と同等以上の学力がある」ことを確認する必要があるが、社会人特別選抜の内容は、「口述試験（社会人としての経験を基にした勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う）、学業成績証明書に基づき、志願者の専門知識や地域が抱える諸課題の解決に向き合う意欲と資質を総合的に評価する」のみであり、「修士の学位を有する者と同等以上の学力がある」ことを適切に確認できるか疑義がある。このため、社会人特別選抜において受験生が「修士の学位を有する者と同等以上の学力があること」を適切に確認できるものとなっているかについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】（是正事項） ･････････････ 33

【教員組織】

５．教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。（是正事項） ･･････ 36

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

６．学生確保の見通し等を記載した書類の「１（エ）学生確保の見通し」において、「アンケート調査の結果、社会的な需要などを踏まえ設定しているので、定員充足に問題がないと判断している」としているが、「入学したい」と回答したのは学部生の５名

のみで、直接進学することが見込まれるヘルスケアシステムシステム科学専攻（修士課程）の学生、医療施設及び企業の職員は１人も「入学したい」と回答していない。学生確保見通し等を説明した書類（本文）において、学生確保のため、在校生に対する説明会を開催する等の説明があるが、長期的かつ安定的な学生確保の観点から、学生確保方策の更なる充実を図ること。（改善事項） ･････････････････････････ 39

【教育課程等】

（改善事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

１．設置の趣旨等を記載した書類（本文）の４（１）に示されている本研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）２では「実験、調査、文献クリティーク等で得た知識を『ゼミナール方式』で展開」するとなっており、シラバスにおいても「コミュニティヘルスケア概論 A」など複数の科目でディスカッションや議論を行うといった記載があるが、１名の入学定員で「ゼミナール方式」を実施することは困難であると考えられる。このため、カリキュラム・ポリシー及びシラバスの妥当性を説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（対応）

ご指摘のあった、設置の趣旨等を記載した書類（本文）４（１）の本研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）２の説明に記載した「ゼミナール方式」については、本専攻の入学定員が１名であることから、多様な視点を取り入れて、効果的にディスカッションを行うことができるように、教員や博士前期課程の学生といった多様性を有する構成員を交えて、ディスカッションを行うこととする。また、専攻専門科目「コミュニティ ヘルスケア概論 A」「コミュニティ ヘルスケア概論 B」「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」の講義においては、各担当教員の最終回において、「医療と多文化共生特論」では講義の最終回において科目担当の他教員や博士前期課程の学生を交えてディスカッションを行う場を設けることとした。このディスカッションでは、多様な視点を取り入れ講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる。このような意図を明確に示すため、設置の趣旨等を記載した書類の、「４　教育課程編成の考え方及び特色　（１）　サステイナブルシステム科学研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）」に説明を追記するとともに、該当する専攻専門科目のシラバスも一部修正した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（11 ページ）

新	旧
（11 ページ） **４　教育課程編成の考え方及び特色** **（１）　サステイナブルシステム科学研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）** （略） ○　CP－２：特定の学問領域を超えて、柔軟でかつ高度な専門知の総合的運用能力を育成する。	（11 ページ） **４　教育課程編成の考え方及び特色** **（１）　サステイナブルシステム科学研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）** （略） ○　CP－２：特定の学問領域を超えて、柔軟でかつ高度な専門知の総合的運用能力を育成する。 将来、教育及び研究活動、または社会問

新	旧
将来、教育及び研究活動、または社会問題解決において、自立的にそれらを推進し、組織の指導者となるために必要な基礎的能力を付与する目的で、個々の課題や現象を俯瞰し、理論と経験を活用しつつ、柔軟性と創造性を発揮して課題解決案を立案し、発表・討論する学修経験が極めて重要である。そのため、実験、調査、文献クリティーク等で得た知識を「ゼミナール方式」で展開し、専攻を超えた学内発表会などを通して発表、討論することで、企画力、構成力、説明説得力、表現力、発言力、交渉力、調整能力を修得させる。上記の「ゼミナール方式」では、多様な視点を取り入れ、効果的にディスカッションを行うために、教員や博士前期課程の学生といった多様性を有する構成員を交えてディスカッションを行うこととする。	題解決において、自立的にそれらを推進し、組織の指導者となるために必要な基礎的能力を付与する目的で、個々の課題や現象を俯瞰し、理論と経験を活用しつつ、柔軟性と創造性を発揮して課題解決案を立案し、発表・討論する学修経験が極めて重要である。そのため、実験、調査、文献クリティーク等で得た知識を「ゼミナール方式」で展開し、専攻を超えた学内発表会などを通して発表、討論することで、企画力、構成力、説明説得力、表現力、発言力、交渉力、調整能力を修得させる。

（新旧対照表）シラバス（８～15 ページ）

新	旧
（８ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 A 授業の概要 次世代コミュニティへの健康支援や健康管理能力の向上は、保健医療分野における重要な課題である。この課題を解決していくためには、生殖医療における倫理問題、認知症やてんかんなどの神経難病、および種々の感染症の蔓延への対応に関する知識が必要となる。加えて夜間でも明るい照明の中で活動するという現代の社会環境や四季に特有の自然環境	（７ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 A 授業の概要 次世代コミュニティへの健康支援や健康管理能力の向上は、保健医療分野における重要な課題である。この課題を解決していくためには、生殖医療における倫理問題、認知症やてんかんなどの神経難病、および種々の感染症の蔓延への対応に関する知識が必要となる。加えて夜間でも明るい照明の中で活動するという現代の社会環境や四季に特有の自然環境

新	旧
が、ヒトの健康ならびに生理学的・心理学的応答に与える影響を理解することも重要となる。本講義では、次世代育成のための健康管理や健康教育、次世代へ影響を与え得る現代社会が抱える健康問題の事例と対応策、およびこれからのコミュニティヘルスケアまたはその関連分野の専門家に求められる医療の知識、技術、および倫理を教授する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。	が、ヒトの健康ならびに生理学的・心理学的応答に与える影響を理解することも重要となる。本講義では、次世代育成のための健康管理や健康教育、次世代へ影響を与え得る現代社会が抱える健康問題の事例と対応策、およびこれからのコミュニティヘルスケアまたはその関連分野の専門家に求められる医療の知識、技術、および倫理を教授する。毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。
授業の計画 現代の社会的環境と体内時計（平山　順） （略） 第 3 回：体内時計の破綻と現代病及び関連分野についてのディスカッション	授業の計画 現代の社会的環境と体内時計（平山　順） （略） 第 3 回：体内時計の破綻と現代病
性と生殖医療（仲田 浩規） （略） 第 6 回：生殖医療の展望及び関連分野についてのディスカッション	性と生殖医療（仲田 浩規） （略） 第 6 回：生殖医療の展望
脳神経疾患の病態解明と治療法開発に向けた現状と課題（北浦 弘樹） （略） 第 9 回：神経難病の克服へ向けた研究的取り組み及び関連分野についてのディスカッション	脳神経疾患の病態解明と治療法開発に向けた現状と課題（北浦 弘樹） （略） 第 9 回：神経難病の克服へ向けた研究的取り組み
種々の気象・環境条件の変化がヒトの生	種々の気象・環境条件の変化がヒトの生

新	旧
理学的・心理学的応答に及ぼす影響（髙木祐介） （略） 第 12 回：種々の環境汚染が惹き起こす症状及び関連分野についてのディスカッション 様々なライフステージの人々が対象の感染対策（伊藤　道子） （略） 第 15 回：ガイドラインにおける手指衛生及び関連分野についてのディスカッション （10 ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の概要 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や排便障害といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら地域で過ごす高齢者への専門性の高い看護ケアも求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を地域保健学だけでなく、行動科学や人間情報学、社会心理学等も踏まえた包括的な観点から考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を	理学的・心理学的応答に及ぼす影響（髙木祐介） （略） 第 12 回：種々の環境汚染が惹き起こす症状について 様々なライフステージの人々が対象の感染対策（伊藤　道子） （略） 第 15 回：ガイドラインにおける手指衛生 （９ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の概要 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や下肢浮腫といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら過ごす高齢者への対応も求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創

新	旧
達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。	成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。
授業の計画 高齢者の運動機能を支えるヘルスケアシステムと医療支援（李 鍾昊） （略） 第 3 回：高齢者の運動機能を支えるヘルスケアシステムと医療支援に対する今後の課題及び関連分野についてのディスカッション 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発（徳田 真由美） （略） 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄看護や地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄看護や地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法 第 7 回：排泄に関する地域包括ケアシステム及び関連分野についてのディスカッション	授業の計画 高齢者の運動機能を支えるヘルスケアシステムと医療支援（李 鍾昊） （略） 第 3 回：高齢者の運動機能を支えるヘルスケアシステムと医療支援に対する今後の課題 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発（徳田 真由美） （略） 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法 （新規）

新	旧
がん医療におけるコミュニティヘルスケア（松井 優子） （略） 第 8 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 9 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 10 回：アピアランス問題における看護師の役割と社会連携システムの構築 第 11 回：がん医療におけるコミュニティヘルスケアの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	がん医療におけるコミュニティヘルスケア（松井 優子） （略） 第 7 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 8 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 9 回：アピアランス問題と社会連携システムの構築 （新規）
種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題（髙木 祐介） （略） 第 12 回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第 13 回：高地での生活における健康管理とその課題 第 14 回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 第 15 回：少子高齢化に係るコミュニティヘルスの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題（髙木 祐介） （略） 第 10 回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第 11 回：高地での生活における健康管理とその課題 第 12 回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 （新規）
（12 ページ） コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論	（11 ページ） コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論
授業の概要 人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。例えば、人間情報学は、人	授業の概要 人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。本講義では、ブレ

新	旧
間の認知や情報処理、ユーザビリティなどに関する学問分野であり、情報技術やデザインにおいて人間中心のアプローチを追求する。本講義では、ブレイン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。	イン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。講義では、毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。
授業の計画 脳科学に基づく医療工学技術（橋本 泰成） （略） 第 3 回：神経リハビリテーション及び関連分野についてのディスカッション 人工知能と脳情報処理（藤田 一寿） （略） 第 6 回：人工知能と人間の相違点と人工知能の未来及び関連分野についてのディスカッション 生体光イメージング（山岡 禎久） （略）	授業の計画 脳科学に基づく医療工学技術（橋本 泰成） （略） 第 3 回：神経リハビリテーション 人工知能と数理神経科学（藤田 一寿） （略） 第 6 回：人工知能と脳の相違点と人工知能の未来 生体光イメージング（山岡 禎久） （略）

新	旧
第 9 回：医学，医療における光イメージング及び関連分野についてのディスカッション	第 9 回：医学，医療における光イメージング
新たな医療戦略につながる医工学的アプローチ（山岡 哲二）	新たな医療戦略につながる医工学的アプローチ（山岡 哲二）
（略）	（略）
第 12 回：生命現象を可視化する新生体イメージング及び関連分野についてのディスカッション	第 12 回：生命現象を可視化する新生体イメージング
新たな看護技術で暮らしを支えるコミュニティヘルスケアシステム（木森 佳子）	新たな看護技術で暮らしを支えるコミュニティヘルスケアシステム（木森 佳子）
（略）	（略）
第 15 回：新たな健康的アプローチを「持続」させるためのエビデンスとマネジメント及び関連分野についてのディスカッション	第 15 回：新たな健康的アプローチを「持続」させるためのエビデンスとマネジメント
（14 ページ） 医療と多文化共生特論 授業の計画 医療における感染管理・感染看護の変遷と取り組み（伊藤 道子） 医療分野では、感染症に対して他者への伝播（ヒト-ヒト感染）を予防させる学問領域を発展させてきた。この領域が「感染管理学（感染制御学ともいう）」という分野である。同分野において、看護職者が取り組んでいる領域は「感染看護学」分野である。感染管理学や感染看護学の成果である感染対策は、主に欧米が中心となり開発・実践されてきた。しかしながら近年は、わが国も数々の感染対策の	（13 ページ） 医療と多文化共生特論 授業の計画 医療における感染管理の変遷と取り組み（伊藤 道子） 医療分野では、感染症に対して他者への伝播（ヒト-ヒト感染）を予防させる学問領域を発展させてきた。この領域が感染管理（感染制御ともいう）という分野である。そして同時に、様々な感染対策が開発されている。これらの感染対策は、主に欧米が中心となり開発・実践されてきた。しかしながら近年は、わが国も数々の感染対策の導入がなされ、COVID-19 に対する感染対策をはじめとし、めざまし

新	旧
導入がなされ、COVID-19 に対する感染対策をはじめとし、めざましい成果がみられている。そこで、欧米およびわが国の感染管理・感染看護の変遷や様々な感染対策について概説する。これらに加え、感染管理を専門とする医療従事者の育成方法や具体的な実践についても紹介する。なお、医療施設において最も在籍数が多い医療従事者は、看護職者である。そこで、看護職者が感染対策を強化した取り組みの成果と、感染管理を専門とする看護師を中心とした、育成方法と成果を述べる。以上を３回に分けて講義し、最終回の講義では、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含めた、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッション等でブレーンストーミングを行う。 （略） 第 15 回：日本における感染管理を専門とする医療従事者の育成方法と成果及び関連分野についてのディスカッション	い成果がみられている。そこで、欧米およびわが国の感染管理の変遷や様々な感染対策について概説する。これらに加え、感染管理を専門とする医療従事者の育成方法や具体的な実践についても紹介する。なお、医療施設において最も多い医療従事者は、看護師である。そこで、感染管理を専門とする看護師を中心に、育成方法と成果を述べる。以上を３回に分けて講義し、毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。 （略） 第 15 回：日本おける感染管理を専門とする医療従事者の育成方法と成果

（是正事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

２．設置の趣旨等を記載した書類（本文）の４（１）に示されている本研究科のカリキュラム・ポリシー（CP）４において、「地域・国際社会で活躍できる資質を涵養する」とあり、設置の趣旨等を記載した書類（資料）資料７で CP４に関連する授業科目として示されているものは「国際・地域特別実習」のみとなっている。しかしながら、同科目のシラバスにある授業概要はフィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップの実施を通じて、地域の課題の観察と課題解決のための方策を考えることとなっているが、実施機関が地域や分野ともに幅広く、実施内容も学生が自主的に打ち合わせることとなっていることから、実習内容についての本学の関与について説明がないため判然とせず、CP４を達成できるような実習内容を確保できるかについて疑義がある。さらに、一人一人の学生に応じた実習内容や実習の時期・期間の決定プロセスについても説明がないことから、カリキュラム・ポリシーを踏まえた授業科目や教育内容が、本研究科の教育課程において適切に編成されているか疑義がある。このため、CP４に基づいた授業科目が適切に配置されていることについて明確に説明するとともに、シラバスを含めた関連する記載について必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（対応）

この度のご意見を踏まえ、研究科のカリキュラム・ポリシー（CP４）に関連する授業科目「国際・地域特別実習」のシラバスを見直し、実習の実施時期・期間の決定プロセス、個々の学生のキャリアや研究テーマを踏まえた実習の実施機関の決定プロセス、実習の指導内容についての本学の関与について明確になるように具体的な説明をシラバス及び設置の趣旨等を記載した書類（本文）に追加した。また、シラバスには各専攻で想定される実習の具体例を明記するとともに、授業の計画の記載についても、より具体的な内容に修正した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（14～16 ページ）

新	旧
（14 ページ） **４　教育課程編成の考え方及び特色** （略） **（４）　科目の区分と概要** **ア　研究科共通科目** （略） 「国際・地域特別実習」（必修２単位） フィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップを実施し、国際・	（14 ページ） **４　教育課程編成の考え方及び特色** （略） **（４）　科目の区分と概要** **ア　研究科共通科目** （略） 「国際・地域特別実習」（必修２単位） フィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップを実施し、国際・

新	旧
地域課題を現地で直接的に又はオンラインにより観察し、課題解決のための方策を考える。必要に応じて遠隔システムを効果的に利用し、実効性のあるケーススタディやインターンシップの実施を図る。 実施時期：特別な事情のない限り、原則１年の夏季休業期間から２年の前期までの１年以内とし、集中的に実施する場合は夏季休業期間中など他の科目履修の支障とならない期間とする。通期的に実施することができる場合は半期（１セメスター）を通して実施することもできる。本実習は課題解決型であり、入学後から実習開始までの間に担当教員とも相談し、実習内容により、集中的にインターンシップを実施したり、定期的に（一週間に一度など）通い、長期間のインターンシップを実施したりするものとする。	地域課題を現地で直接的に又はオンラインにより観察し、課題解決のための方策を考える。必要に応じて遠隔システムを効果的に利用し、実効性のあるケーススタディやインターンシップの実施を図る。 実施時期：特別な事情のない限り、原則１年の夏季休業期間から２年の前期までの１年以内とし、集中的に実施する場合は夏季休業期間中など他の科目履修の支障とならない期間とする。通期的に実施することができる場合は半期（１セメスター）を通して実施することもできる。
実施機関：本学近隣の企業、医療、行政機関、もしくは本学の海外オフィス（米国シリコンバレー他）及び協定校等とする。実施機関の選定にあたっては、入学後から実習開始までの間に担当教員から指導や助言を受けながら、個々の学生の将来のキャリアや研究テーマを踏まえ、候補を絞り込み、最終的には学生の希望を確認し、実施機関を決定する。	実施機関：本学近隣の企業、医療、行政機関、もしくは本学の海外オフィス（米国シリコンバレー、中米グアテマラ）とする。
対象となる学生の要件：主に保健・医療・福祉に深い関心を有し、現場に即した課題の発掘と解決への道筋を追求する意欲をもつ。学生は、関連する企業等の受け入れ機関と実施内容について自主的に綿密な打合せを行う。実施後、報告会を行いその成果を報告する。報告会では実習の結果報告にとどまらず、実習先が抱える課題とその解	対象となる学生の要件：ものづくり、保健・医療・福祉、異文化に深い関心を有し、現場に即した課題の発掘と解決への道筋を追求する意欲をもつ。学生は、関連する企業等の受け入れ機関と実施内容について自主的に綿密な打合せを行う。実施後、その成果を報告する。

新	旧
決策について発表することとし、担当教員による成果の確認を行うとともに、その成果をどのように発展させていくのかについて指導を行う。 指導内容・体制：国内外で現場に即した課題の発掘と解決への道筋を探り、専攻の垣根を超えた新しいコラボレーションの可能性も追求する。学生は担当教員から指導や助言を受けながら、自立的に研究課題に適した企業・機関等を選択し、指導教員及び出先企業等の担当者とも連携する。また、事前研修において、実習の目標を明確に設定する。さらに、実習実施内容のモニタリングについては、毎回の実習後に業務日誌等を作成・提出させることで、実習の実施状況や進捗状況を担当教員が確認する。一定の期間（通常は５回の実習）毎に行うカンファレンスにおいては、実習内容の方向性について、受け入れ機関と担当教員が協調して指導していく。最終的な評価は、実施機関からの評価も参考にし、担当教員が行う。 具体例： 【研究科共通】 ① 米国シリコンバレーオフィス（平成 30 年度開設）を拠点に現地企業でのインターンシップや産学合同研修を行い、課題研究の発展を促し、アントレプレナーシップを涵養する。 【ヘルスケアシステム科学専攻】 ~~①~~ 地域の企業及び回復期病院をフィールドとして、運動制御能力モニタリングシステムの開発とリハビリテーショ	指導内容・体制：国内外で現場に即した課題の発掘と解決への道筋を探り、専攻の垣根を超えた新しいコラボレーションの可能性も追求する。学生は自立的に研究課題に適した企業・機関等を選択し、指導教員及び出先企業等の担当者とも連携する。 具体例： 【研究科共通】 ① 米国シリコンバレーオフィス（平成 30 年度開設）を拠点に現地企業でのインターンシップや産学合同研修を行い、課題研究の発展を促し、アントレプレナーシップを涵養する。 【ヘルスケアシステム科学専攻】 ① 地域の企業及び回復期病院をフィールドとして、運動制御能力モニタリングシステムの開発とリハビリテーション

新	旧
ンへの応用を研究する。本研究は韓国の協定校である Hoseo 大学等との学術交流の一端として研究プロジェクト等への積極的参加を促す。 ② 地域の訪問看護ステーションを拠点に、排便ケアに注目した在宅看護のケーススタディを行う。このケーススタディでは、小松市を中心に設立される「日本うんこ文化学会」及び関連機関との学際的な交流も図る。また、タイのナレスワン大学等の海外協定校との学術交流に積極的参加を促す。	への応用を研究する。本研究は韓国の大学等との共同研究としても行われる。 ② 地域の訪問看護ステーションを拠点に、排便ケアに注目した在宅看護のケーススタディを行う。このケーススタディでは、小松市を中心に設立される「日本うんこ文化学会」及び関連機関との学際的な交流も図る。

（新旧対照表）シラバス（６～７ページ）

新	旧
（６ページ） 国際・地域特別実習 授業の概要 フィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップを実施し、国際・地域課題を現地で直接的に又はオンラインにより観察し、課題解決のための方策を考える。必要に応じて遠隔システムを効果的に利用し、実効性のあるケーススタディやインターンシップの実施を図る。 実施時期:特別な事情のない限り、原則１年の夏季休業期間から２年の前期までの１年以内とし、集中的に実施する場合は夏季休業期間中など他の科目履修の支障とならない期間とする。通期的に実施することができる場合は半期（１セメスター）を通して実施することもできる。	（５ページ） 国際・地域特別実習 授業の概要 フィールドワークを通じたケーススタディ及びインターンシップを実施し、国際・地域課題を現地で直接的に又はオンラインにより観察し、課題解決のための方策を考える。必要に応じて遠隔システムを効果的に利用し、実効性のあるケーススタディやインターンシップの実施を図る。 実施時期：特別な事情のない限り、原則１年の夏季休業期間から２年の前期までの１年以内とし、集中的に実施する場合は夏季休業期間中など他の科目履修の支障とならない期間とする。通期的に実施することができる場合は半期（１セメスター）を通して実施することもできる。

新	旧
本実習は課題解決型であり、入学後から実習開始までの間に担当教員とも相談し、実習内容により、集中的にインターンシップを実施したり、定期的に（一週間に一度など）通い、長期間のインターンシップを実施したりするものとする。	
実施機関：本学近隣の企業、医療、行政機関、もしくは本学の海外オフィス（米国シリコンバレー他）とする。実施機関の選定にあたっては、入学後から実習開始までの間に担当教員から指導や助言を受けながら、個々の学生の将来のキャリアや研究テーマを踏まえ、候補を絞り込み、最終的には学生の希望を確認し、実施機関を決定する。	実施機関：本学近隣の企業、医療、行政機関、もしくは本学の海外オフィス（米国シリコンバレー、中米グアテマラ）とする。
対象となる学生の要件：主に保健・医療・福祉に深い関心を有し、現場に即した課題の発掘と解決への道筋を追求する意欲をもつ。学生は、関連する企業等の受け入れ機関と実施内容について自主的に綿密な打合せを行う。実施後、報告会を行いその成果を報告する。報告会では実習の結果報告にとどまらず、実習先が抱える課題とその解決策について発表することとし、担当教員による成果の確認を行うとともに、その成果をどのように発展させていくのかについて指導を行う。	対象となる学生の要件：ものづくり、保健・医療・福祉、異文化に深い関心を有し、現場に即した課題の発掘と解決への道筋を追求する意欲をもつ。学生は、関連する企業等の受け入れ機関と実施内容について自主的に綿密な打合せを行う。実施後、その成果を報告する。
指導内容・体制：国内外で現場に即した課題の発掘と解決への道筋を探り、専攻の垣根を超えた新しいコラボレーションの可能性も追求する。学生は、担当教員から指導や助言を受けながら、自立的に研究課題に適した企業・機関等を選択し、	指導内容・体制：国内外で現場に即した課題の発掘と解決への道筋を探り、専攻の垣根を超えた新しいコラボレーションの可能性も追求する。学生は、自立的に研究課題に適した企業・機関等を選択し、指導教員及び出先企業等の担当者と

新	旧
指導教員及び出先企業等の担当者とも連携する。また、事前研修において、実習の目標を明確に設定する。さらに、実習実施内容のモニタリングについては、毎回の実習後に業務日誌等を作成・提出させることで、実習の実施状況や進捗状況を担当教員が確認する。一定の期間（通常は５回の実習）毎に行うカンファレンスにおいては、実習内容の方向性について、受け入れ機関と担当教員が協調して指導していく。最終的な評価は、実施機関からの評価も参考にし、担当教員が行う。 実習機関の選定にあたっては、学生のキャリアパスに則して以下のようなガイドラインを参考として、指導教員と協議の上決定する。 ・専攻分野を活かしたアントレプレナーを目指す 米国シリコンバレーオフィス（平成 30 年度開設） ・地域振興に貢献する 地域の中核的な医療機関である、金沢大学附属病院、小松市民病院、やわたメディカルセンター他、各種医療法人および近隣の自治体等 ・専攻分野の教育・研究者を目指す 金沢大学附属病院、国立循環器病研究センター、産業技術総合研究所。 海外協定校であるタイのナレスワン大学、韓国の湖西大学及び JICA 等。 授業の計画 第１回：オリエンテーション（実習の目標及び方向性等の確認を行う）	も連携する。 授業の計画 第１回：オリエンテーション

新	旧
第２回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第２回：実施機関での実習／カンファレンス
第３回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第３回：実施機関での実習／カンファレンス
第４回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第４回：実施機関での実習／カンファレンス
第５回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第５回：実施機関での実習／カンファレンス
第６回：実施機関での実習／カンファレンス（担当教員によるこれまでの実習内容の確認と今後の実習内容の方向性等の指導）	第６回：実施機関での実習／カンファレンス
第７回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第７回：実施機関での実習／カンファレンス
第８回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第８回：実施機関での実習／カンファレンス
第９回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第９回：実施機関での実習／カンファレンス
第 10 回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第 10 回：実施機関での実習／カンファレンス
第 11 回：実施機関での実習／カンファレンス（担当教員によるこれまでの実習内容の確認と報告会で行う結果報告についての指導）	第 11 回：実施機関での実習／カンファレンス
第 12 回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告	第 12 回：実施機関での実習／カンファレンス

新	旧
第 13 回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告 第 14 回：実施機関での実習／業務日誌等の提出による実習実施状況や進捗状況の報告 第 15 回：まとめ、報告会での結果報告および実習先が抱える課題とその解決策についてのプレゼンテーション	第 13 回：実施機関での実習／カンファレンス 第 14 回：実施機関での実習／カンファレンス 第 15 回：まとめ、報告会でのプレゼンテーション

（是正事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

３．設置の趣旨等を記載した書類（本文）の２（６）「ヘルスケアシステム科学専攻のディプロマ・ポリシー」の２つ目の○において、「保健・医療・福祉の観点から看護学、保健学、基礎医学、人間医工学、人間情報学といった専門分野において～その分野の学問の深化と発展に貢献できる能力を有すること」とあり、４（２）「ヘルスケアシステム科学専攻博士後期課程のカリキュラム・ポリシー（CP)」の１つ目の○において「保健・医療・福祉の観点から～看護学、保健学、基礎医学、人間医工学、人間情報学といった専門分野に関連する能力を育成する」と書かれている。また、設置の趣旨等を記載した書類（資料）資料６において、当該カリキュラム・ポリシーに紐づく科目の説明がある。しかしながら、当該カリキュラム・ポリシーに紐づく科目（「コミュニティ ヘルスケア概論 A」「コミュニティ ヘルスケア概論 B」「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」「医療と多文化共生特論」）のシラバスを見ても、基礎医学、保健学、人間医工学以外の看護学や人間情報学に関する内容が授業内容に反映されていないと見受けられる。したがって、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を確実に修得することができる教育課程が適切に編成されているか疑義があることから、上記ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに掲げる資質・能力を適切に身につけることができる教育課程となっていることについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

（対応）

この度のご指摘を踏まえ、本専攻のカリキュラム・ポリシー「保健・医療・福祉の観点から、人類の持続的発展のための諸課題を明らかにし、それら課題の解決と社会実装に求められる看護学、保健学、基礎医学、人間医工学、人間情報学といった専門分野に関連する能力を育成するための関連科目を編成する。」に関連する専攻専門科目のうち、「コミュニティ ヘルスケア概論 B」、「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」のシラバスの見直しを行い、看護学や人間情報学に関する内容が授業内容に反映されるようシラバスの記載および関連する設置の趣旨等を記載した書類（本文）の記載を修正した。

具体的には、「看護学」に関する内容を明確にするために、「コミュニティヘルスケア概論 B」、「医療と多文化共生論」の授業の概要及び授業の計画の記述を修正した。また、「人間情報学」に関する内容を明確にするために、「コミュニティヘルスケア概論 B」、「コミュニティヘルスケアとユキビタス医工学特論」の授業の概要及び授業の計画の記述を修正した。

また、上記のカリキュラム・ポリシーは「特別研究」にも関連していることから、各専攻専門科目において、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげるようなデ

ィスカッションの場を設けることとし、上記のカリキュラム・ポリシーと各専攻専門科目及び「特別研究」への関連性についても説明した。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（18～19 ページ）

新	旧
（18 ページ） 「コミュニティ ヘルスケア概論 B」 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や排便障害といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら地域で過ごす高齢者への専門性の高い看護ケアも求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を地域保健学だけでなく、行動科学や人間情報学、社会心理学等も踏まえた包括的な観点から考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。	（18 ページ） 「コミュニティ ヘルスケア概論 B」 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や下肢浮腫といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら過ごす高齢者への対応も求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。
（18 ページ） 「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」	（18 ページ） 「コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論」

新	旧
人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。例えば、人間情報学は、人間の認知や情報処理、ユーザビリティなどに関する学問分野であり、情報技術やデザインにおいて人間中心のアプローチを追求する。本講義では、ブレイン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。	人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。本講義では、ブレイン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。
(19 ページ) 「医療と多文化共生特論」 本講義の目的は、受講者の文化的視点から医療を考える能力を向上させることである。近年、在留外国人や訪日外国人旅行者の増加に伴い、日本国内で医療を受ける外国人が増加している。また、医療が成長産業として注目される東南アジア地域などの海外で、日本の医療技術・機器を普及させていくことには、医療ビジネスへの発展への貢献が期待されている。本講義では、異なる文化を背景に持つ外国人に日本の医療を提供する際の課題について、3 次救急医療、がん医療・が	(18 ページ) 「医療と多文化共生特論」 本講義の目的は、受講者の文化的視点から医療を考える能力を向上させることである。近年、在留外国人や訪日外国人旅行者の増加に伴い、日本国内で医療を受ける外国人が増加している。また、医療が成長産業として注目される東南アジア地域などの海外で、日本の医療技術・機器を普及させていくことには、医療ビジネスへの発展への貢献が期待されている。本講義では、異なる文化を背景に持つ外国人に日本の医療を提供する際の課題について、3 次救急医療、がん医療、ま

新	旧
ん看護、または感染管理・感染看護を例に議論する。また、東南アジア地域への展開が期待されている血液透析などの優れた日本の臨床工学技術を紹介する。加えて、日本の医療や医療技術を異なる文化を背景に持つヒトや地域に提供していくために求められる、その対象の言語、宗教、または死生観などの文化的背景の理解の重要性を教授する。	たは感染管理を例に議論する。また、東南アジア地域への展開が期待されている血液透析などの優れた日本の臨床工学技術を紹介する。加えて、日本の医療や医療技術を異なる文化を背景に持つヒトや地域に提供していくために求められる、その対象の言語、宗教、または死生観などの文化的背景の理解の重要性を教授する。

（新旧対照表）シラバス（８～15 ページ）

新	旧
（８ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 A 授業の概要 次世代コミュニティへの健康支援や健康管理能力の向上は、保健医療分野における重要な課題である。この課題を解決していくためには、生殖医療における倫理問題、認知症やてんかんなどの神経難病、および種々の感染症の蔓延への対応に関する知識が必要となる。加えて夜間でも明るい照明の中で活動するという現代の社会環境や四季に特有の自然環境が、ヒトの健康ならびに生理学的・心理学的応答に与える影響を理解することも重要となる。本講義では、次世代育成のための健康管理や健康教育、次世代へ影響を与え得る現代社会が抱える健康問題の事例と対応策、およびこれからのコミュニティヘルスケアまたはその関連分野の専門家に求められる医療の知識、技術、および倫理を教授する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他	（７ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 A 授業の概要 次世代コミュニティへの健康支援や健康管理能力の向上は、保健医療分野における重要な課題である。この課題を解決していくためには、生殖医療における倫理問題、認知症やてんかんなどの神経難病、および種々の感染症の蔓延への対応に関する知識が必要となる。加えて夜間でも明るい照明の中で活動するという現代の社会環境や四季に特有の自然環境が、ヒトの健康ならびに生理学的・心理学的応答に与える影響を理解することも重要となる。本講義では、次世代育成のための健康管理や健康教育、次世代へ影響を与え得る現代社会が抱える健康問題の事例と対応策、およびこれからのコミュニティヘルスケアまたはその関連分野の専門家に求められる医療の知識、技術、および倫理を教授する。毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行

新	旧
教員・博士前期課程学生を含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。	う。
(10 ページ) コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の概要 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や排便障害といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら地域で過ごす高齢者への専門性の高い看護ケアも求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を地域保健学だけでなく、行動科学や人間情報学、社会心理学等も踏まえた包括的な観点から考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他教員・博士前期課程学生を	(９ページ) コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の概要 超高齢化社会を迎えた日本では、運動機能の低下や下肢浮腫といった身体症状を患う高齢の要介護者が増加している。また、医療の発展に伴い重い疾病を罹患しながら過ごす高齢者への対応も求められている。さらに、日本の国土面積の多くを占める山地や豪雪地帯および離島における医療と健康に関する課題を考えていく必要がある。このような社会状況は、医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき新たな課題を生じさせ、在宅・遠隔医療とコミュニティヘルスケアの必要性を高めている。特に、日本の厚生労働省は、地域の高齢者や要介護者などを対象とした地域包括ケアシステムの法制化と実用化を達成することをめざしている。本講義では、これからの社会で求められるコミュニティヘルスケアシステムの創成に必要となる知識と技術、ならびにその推進に求められる各自治体レベルでの医療・介護・福祉分野の連携の重要性を教授する。毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。

新	旧
含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。 授業の計画 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発（徳田 真由美） 地域には、便秘や下痢などの排便障害があり、苦痛や生活に支障のある人々が暮らしている。排便の介護は家族にとっても身体的・精神的・社会的な負担が大きい。排尿についても同様である。市民の排泄状況、排泄ケアにおける看護や地域包括ケアシステムの現状や課題について紹介し、市民が気持ちよく排泄することができ、生活の質を高めることについて考える。排泄は、身体性、人との関係性、価値観などにより構成され、生命をつなぐために毎日営まれている文化である。排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄ケアにおける看護職の役割及び多職種との連携・協働、地域包括ケアシステムについて概説し、研究の意義や研究方法について学ぶ。 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄看護や地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄看護や地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法 第 7 回：排泄に関する地域包括ケアシステム及び関連分野についてのディスカッション	授業の計画 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発（徳田 真由美） 地域には、便秘や下痢などがあり、排便に関する苦痛や生活に支障のある人々が暮らしている。排便のケアや介護を行う家族にとって、身体的・精神的・社会的な負担が大きい。排尿についても同様である。市民の排泄状況や排泄ケア、地域包括ケアシステムの現状や課題について明らかにし、ケアや地域包括ケアシステムを発展させていくことは、市民が気持ちよく排泄することができ、生活の質を高めることにつながる。排泄は、身体性、人との関係性、価値観などにより構成され、生命をつなぐために毎日営まれている文化である。排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄のケア、地域包括ケアシステムについて概説し、研究の意義や研究方法について学ぶ。 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法

新	旧
がん医療におけるコミュニティヘルスケア（松井 優子） がん医療の発展に伴い、がんを罹患しながら過ごす高齢者の増加や、これまでにない副作用管理の必要性が増加している。要介護状態にある高齢がん患者とその家族が抱える課題の解決のために、介護保健施設や小規模多機能型介護施設における看護師の役割拡大、遠隔看護を含む医療・介護・福祉の強固な連携体制の必要性が高まっている。また、分子標的薬などの新規抗がん剤の副作用により、アピアランス（外見）の問題や、就業および経済的問題が発生している。これらの医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき課題を取り上げる。 第 8 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 9 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 10 回：アピアランス問題における看護師の役割と社会連携システムの構築 第 11 回：がん医療におけるコミュニティヘルスケアの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	がん医療におけるコミュニティヘルスケア（松井 優子） がん医療の発展に伴い、がんを罹患しながら過ごす高齢者の増加や、これまでにない副作用管理の必要性が増加している。要介護状態にある高齢がん患者とその家族が抱える課題の解決のために、介護保健施設や小規模多機能型介護施設の役割拡大、遠隔看護を含む医療・介護・福祉の強固な連携体制の必要性が高まっている。また、分子標的薬などの新規抗がん剤の副作用により、アピアランス（外見）の問題や、就業および経済的問題が発生している。これらの医療だけでなく地域社会全体で取り組むべき課題を取り上げる。 第 7 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 8 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 9 回：アピアランス問題と社会連携システムの構築
種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題（髙木 祐介） 本邦でみられる種々の気象・環境条件は多様である。また、亜寒帯地域～亜熱帯地域、山岳地帯、豪雪地帯、離島等、様々な地理的環境下において人々は暮らしている。その中では生活の知恵によって行われる健康管理があれば、科学的な方法によって守られている健康状態も見受けられる。ここでは、特に、本邦の国土面積の多くを占める山地および豪雪地帯数千以上ある離島、過疎地域などでみら	種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題（髙木 祐介） 本邦でみられる種々の気象・環境条件は多様である。また、亜寒帯地域～亜熱帯地域、山岳地帯、豪雪地帯、離島等、様々な地理的環境下において人々は暮らしている。その中では生活の知恵によって行われる健康管理があれば、科学的な方法によって守られている健康状態も見受けられる。ここでは、特に、本邦の国土面積の多くを占める山地および豪雪地帯数千以上ある離島、過疎地域などでみら

新	旧
れる人々の生活及び健康に関する課題に着目し、地域保健学、環境保健学、行動科学、運動生理学、人間情報学、社会心理学等の観点から考察し講義する。 第12回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第13回：高地での生活における健康管理とその課題 第14回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 第15回：少子高齢化に係るコミュニティヘルスの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	れる人々の生活及び健康に関する課題に着目し講義する。 第10回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第11回：高地での生活における健康管理とその課題 第12回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 （新規）
（12ページ） コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論 授業の概要 人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。例えば、人間情報学は、人間の認知や情報処理、ユーザビリティなどに関する学問分野であり、情報技術やデザインにおいて人間中心のアプローチを追求する。本講義では、ブレイン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授	（11ページ） コミュニティ ヘルスケアとユビキタス医工学特論 授業の概要 人工頭脳学、機械電子工学、または情報学といったロボット工学の学問分野と、脳・神経科学、行動科学、または解剖・生理学といったヒトに関わる学問分野を融合させた知識と技術の医療への活用が注目されている。本講義では、ブレイン・マシン・インタフェース、人工知能、人工臓器、および生体イメージングといった工学と医学を融合した科学技術の医療や医学研究における有用性を考究する。加えて、新しい医療技術を社会で今後活用していくために求められる技術普及のための教育とマネジメントを教授する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。講義では、毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。

新	旧
する。以上の講義を通じて、社会の要請に応じる学際的な次世代の医療を展望する。講義では、各担当教員の最終回において、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含め、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッションの場を設ける。	
授業の計画 脳科学に基づく医療工学技術（橋本 泰成） 人間情報学の視点を加えることで、技術やシステムの開発や設計において、人々のニーズや認知特性を理解し、より使いやすい、効果的なインタフェースやシステムを創造することが可能となる。脳科学に基づく医療工学技術（ブレイン・マシン・インタフェース;BMI）は、人間情報学の一部として位置付けられる。BMI 技術は、脳とコンピュータを接続し、脳の信号を解析して外部機器を制御することで肢体不自由者が身体機能を補完するためのインタフェースとして使用することができる。BMI 技術の開発や設計には、人間情報学の原則やユーザビリティの考え方が重要な役割を果たす。 本授業では、BMI 技術の基盤となる神経生理学の知見を紹介し、BMI の医療応用に向けた研究の現状と課題を議論する。また、BMI が肢体不自由者にとって真の福音となる可能性についても展望する。これにより、履修者は人間情報学の視点から BMI 技術を理解し、その応用の可能性や課題について考えることができる。 （略）	授業の計画 脳科学に基づく医療工学技術（橋本 泰成） 脳とコンピュータをつなぐ技術であるブレイン・マシン・インターフェース（BMI）技術は近年、人工知能との協調により、急速に進展してきている。こうした脳科学的な技術の医療　応用の可能性はどこまで現実的なのか。本授業では、BMI 技術のベースになっている神経生理学の知見を概観するとともに BMI の医療応用に向けた研究の現状と課題を議論する。また BMI が肢体不自由者の真の福音となりえる将来像を展望する。 （略）

新	旧
人工知能と脳情報処理（藤田 一寿） 人工知能の著しい進化は、人工ニューラルネットワークの発展に依るところが大きい。この人工ニューラルネットワークは脳のモデルから派生したものであり、脳情報処理の理解は人工知能を深く理解する上で不可欠である。本講義では、まず人工知能と脳の情報処理との関連について探り、人工知能の基本原理への深い理解を目指す。次に、脳の情報処理の原理として近年注目される自由エネルギー原理と、それが人工知能にどのように適用できるかについて論じる。そして最後に、人工知能と人間との間の差異を踏まえ、人工知能の未来の技術的展望について考察する。 第 4 回：人工知能と脳情報処理との関係 第 5 回：自由エネルギー原理とその人工知能への適用 第 6 回：人工知能と人間の相違点と人工知能の未来及び関連分野についてのディスカッション	人工知能と数理神経科学（藤田 一寿） 物理学はガリレオ・ガリレイよる数理手法の導入により大きく発展した。脳神経科学においては 20 世紀中頃に数理手法が導入されはじめ、その成果は脳神経科学のみならず様々な分野に広がっている。人工知能の発展は数理神経科学の成果の最たるものである。本講義では、人工知能と数理神経科学の関係をいくつか紹介し、さらに人工知能の将来について議論する。 第 4 回：人工知能と神経モデル 第 5 回：人工知能と自由エネルギー原理に基づく意思決定理論 第 6 回：人工知能と脳の相違点と人工知能の未来
（14 ページ） 医療と多文化共生特論 授業の概要 本講義の目的は、受講者の文化的視点から医療を考える能力を向上させることである。近年、在留外国人や訪日外国人旅行者の増加に伴い、日本国内で医療を受ける外国人が増加している。また、医療が成長産業として注目される東南アジア地域などの海外で、日本の医療技術・機器を普及させていくことには、医療ビ	（13 ページ） 医療と多文化共生特論 授業の概要 本講義の目的は、受講者の文化的視点から医療を考える能力を向上させることである。近年、在留外国人や訪日外国人旅行者の増加に伴い、日本国内で医療を受ける外国人が増加している。また、医療が成長産業として注目される東南アジア地域などの海外で、日本の医療技術・機器を普及させていくことには、医療ビ

新	旧
ジネスへの発展への貢献が期待されている。本講義では、異なる文化を背景に持つ外国人に日本の医療を提供する際の課題について、3次救急医療、がん医療・がん看護、または感染管理・感染看護を例に議論する。また、東南アジア地域への展開が期待されている血液透析などの優れた日本の臨床工学技術を紹介する。加えて、日本の医療や医療技術を異なる文化を背景に持つヒトや地域に提供していくために求められる、その対象の言語、宗教、または死生観などの文化的背景の理解の重要性を教授する。 授業の計画 悪性腫瘍の療養過程における多文化共生 （松井 優子） 悪性腫瘍の治療は分子標的治療薬や免疫療法などが急速に発展し、治療を受けながら社会 生活を送るがんサバイバーが増えていることから、がん患者が療養生活において抱える問題も多岐にわたっている。薬物治療をめぐる健康詐欺商法、本邦と諸外国との薬剤承認の時間 格差であるドラッグ・ラグの問題、がん医療において宗教の果たす役割と解決すべき課題 AYA（Adolescent＆Young Adult：思春期・若年成人）世代のがん患者に特徴的な課題、悪性腫瘍に随伴する浮腫や創傷治療の本邦と東南アジアおよび欧州における文化的発展を背景にした看護ケアの違いなどを取り上げる。 （略） 医療における感染管理・感染看護の変遷	ジネスへの発展への貢献が期待されている。本講義では、異なる文化を背景に持つ外国人に日本の医療を提供する際の課題について、3次救急医療、がん医療、または感染管理を例に議論する。また、東南アジア地域への展開が期待されている血液透析などの優れた日本の臨床工学技術を紹介する。加えて、日本の医療や医療技術を異なる文化を背景に持つヒトや地域に提供していくために求められる、その対象の言語、宗教、または死生観などの文化的背景の理解の重要性を教授する。 授業の計画 悪性腫瘍の療養過程における多文化共生 （松井 優子） 悪性腫瘍の治療は分子標的治療薬や免疫療法などが急速に発展し、治療を受けながら社会 生活を送るがんサバイバーが増えていることから、がん患者が療養生活において抱える問題も多岐にわたっている。薬物治療をめぐる健康詐欺商法、本邦と諸外国との薬剤承認の時間 格差であるドラッグ・ラグの問題、がん医療において宗教の果たす役割と解決すべき課題 AYA（Adolescent＆Young Adult：思春期・若年成人）世代のがん患者に特徴的な課題、悪性腫瘍に随伴する浮腫や創傷治療の本邦と東南アジアおよび欧州における文化的発展の違いなどを取り上げる。 （略） 医療における感染管理の変遷と取り組み

新	旧
と取り組み（伊藤 道子） 医療分野では、感染症に対して他者への伝播（ヒト-ヒト感染）を予防させる学問領域を発展させてきた。この領域が「感染管理学（感染制御学ともいう）」という分野である。同分野において、看護職者が取り組んでいる領域は「感染看護学」分野である。 感染管理学や感染看護学の成果である感染対策は、主に欧米が中心となり開発・実践されてきた。しかしながら近年は、わが国も数々の感染対策の導入がなされ、COVID-19に対する感染対策をはじめとし、めざましい成果がみられている。そこで、欧米およびわが国の感染管理・感染看護の変遷や様々な感染対策について概説する。これらに加え、感染管理を専門とする医療従事者の育成方法や具体的な実践についても紹介する。なお、医療施設において最も在籍数が多い医療従事者は、看護職者である。そこで、看護職者が感染対策を強化した取り組みの成果と、感染管理を専門とする看護師を中心とした、育成方法と成果を述べる。以上を３回に分けて講義し、最終回の講義では、科目担当の他教員・博士前期課程学生を含めた、多様性を有する構成員により、講義で学んだ諸知見を将来の特別研究へ発展的につなげる可能性を追求するディスカッション等でブレーンストーミングを行う。	（伊藤 道子） 医療分野では、感染症に対して他者への伝播（ヒト-ヒト感染）を予防させる学問領域を発展させてきた。この領域が感染管理（感染制御ともいう）という分野である。そして同時に、様々な感染対策が開発されている。これらの感染対策は、主に欧米が中心となり開発・実践されてきた。しかしながら近年は、わが国も数々の感染対策の導入がなされ、COVID-19に対する感染対策をはじめとし、めざましい成果がみられている。そこで、欧米およびわが国の感染管理の変遷や様々な感染対策について概説する。これらに加え、感染管理を専門とする医療従事者の育成方法や具体的な実践についても紹介する。なお、医療施設において最も多い医療従事者は、看護師である。そこで、感染管理を専門とする看護師を中心に、育成方法と成果を述べる。以上を３回に分けて講義し、毎回ディスカッション等でブレーンストーミングを行う。

【入学者選抜】

（是正事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

４．設置の趣旨等を記載した書類「９（３）選抜方法」によれば、一般選抜等では「修士論文の写し又はこれに準ずるもの」の提出を受験生に求めているが、社会人特別選抜では求めていないことから、社会人特別選抜では修士課程を修了していない学生の受入れを想定しているものと見受けられる。学校教育法（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 156 条第６号の規定により、修士の学位を有さない者が博士課程に入学するためには、「修士の学位を有する者と同等以上の学力がある」ことを確認する必要があるが、社会人特別選抜の内容は、「口述試験（社会人としての経験を基にした勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う）、学業成績証明書に基づき、志願者の専門知識や地域が抱える諸課題の解決に向き合う意欲と資質を総合的に評価する」のみであり、「修士の学位を有する者と同等以上の学力がある」ことを適切に確認できるか疑義がある。このため、社会人特別選抜において受験生が「修士の学位を有する者と同等以上の学力があること」を適切に確認できるものとなっているかについて明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。【研究科共通】

（対応）

ご指摘いただいたように、本専攻の入学試験においては、社会人特別選抜では修士課程を修了していない学生の受入れも想定している。博士後期課程に入学を希望する修士課程を修了していない社会人は、会社等の自身が所属する組織内や学会等での発表の要旨を有している者が多く、このような学会発表等の実績を、「修士論文に準ずるもの」として入試の際に提出させ、「修士の学位を有する者と同等以上の学力があること」の判断材料とすることとした。また、提出した「修士論文に準ずるもの」についての関連する知識や英語力について口頭試問で確認することにより、「修士の学位を有する者と同等以上の学力があること」の判断材料とすることとした。

なお、修士課程を修了していない者については、入学までの間に、日本学術振興会（JSPS）で実施している研究倫理研修会（e-ラーニング）を受講させ、修了証明書を入学時に提出させることとし、入学後は、指導教員が論文を作成するうえでの研究倫理等について丁寧に指導を行うこととする。さらに、一般選抜、外国人留学生特別選抜の書類審査の文言を、社会人特別選抜に合わせて修正した。

以上のことについて明確に示すため、「設置の趣旨等を記載した書類　９　入学者選抜の概要　（３）選抜方法」の項の記載を改めた。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（32～33 ページ）

新	旧
（32 ページ）	（32 ページ）

新	旧
９　入学者選抜の概要 （略） **（３）　選抜方法** （略） ②　選抜方法 ○　一般選抜 書類審査（修士論文又はこれに準ずるものの写し及び研究計画書）、および口述試験で、専門分野についての学力と当該分野の研究に必要な外国語能力を問う。また、学業成績証明書に基づき、志願者の専門知識や健康と福祉が抱える諸課題の解決に向き合う勉学への意欲を評価する。 ○　社会人特別選抜 書類審査（修士論文又はこれに準ずるものの写し及び研究計画書）と口述試験（専門分野についての学力と当該分野の研究に必要な英語力、および社会人としての経験を基にした勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う）、学業成績証明書に基づき、能力や資質を総合的に評価する。 ○　外国人留学生特別選抜 書類審査（修士論文又はこれに準ずるものの写し及び研究計画書）、口述試験及び、専門分野についての学力と当該分野の研究に必要な外国語・日本語能力を問う試験を課す。 口述試験は、学業成績証明書に基づき、志願者の勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う。 なお、修士課程を修了していない者については、入学までの間に、日本学術振興会（JSPS）で実施している研究倫理研修会（e-ラーニング）を受講させ、修了証明	**９　入学者選抜の概要** （略） **（３）　選抜方法** （略） ②　選抜方法 ○　一般選抜 書類審査（修士論文の写し又はこれに準ずるもの及び研究計画書）、および口述試験で、専門分野についての学力と当該分野の研究に必要な外国語能力を問う。また、学業成績証明書に基づき、志願者の専門知識や健康と福祉が抱える諸課題の解決に向き合う勉学への意欲を評価する。 ○　社会人特別選抜 口述試験（社会人としての経験を基にした勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う）、学業成績証明書に基づき、能力や資質を総合的に評価する。 ○　外国人留学生特別選抜 書類審査（修士論文の写し又はこれに準ずるもの及び研究計画書）、口述試験及び、専門分野についての学力と当該分野の研究に必要な外国語・日本語能力を問う試験を課す。 口述試験は、学業成績証明書に基づき、志願者の勉学意欲と研究に取り組む姿勢を問う。

新	旧
書を入学時に提出させるとともに、入学後は、指導教員が論文を作成するうえでの研究倫理等について丁寧に指導を行うこととする。	

【教員組織】

（是正事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

５．教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった授業科目について、当該授業科目を担当する教員を専任教員以外の教員で補充する場合には、当該授業科目の教育課程における位置付け等を明確にした上で、当該教員を後任として補充することの妥当性について説明すること。

（対応）

教員資格審査において、「不可」や「保留」、「適格な職位・区分であれば可」となった教員が担当する予定であった授業科目については、不可となった教員を担当から外し、補充が必要な授業科目については、授業の内容を一部変更し、教員審査において「D 可」と判定された専任教員が担当することとした。

（新旧対照表）基本計画書（５ページ）

新	旧
（５ページ） 教育課程等の概要 国際・地域特別実習 専任教員の配置 教授　１０ 准教授　２	（５ページ） 教育課程等の概要 国際・地域特別実習 専任教員の配置 教授　１２ 准教授　３

（新旧対照表）シラバス（10～11 ページ）

新	旧
（10 ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の計画 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発 （略） 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄看護や地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄看護や地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法	（９ページ） コミュニティ ヘルスケア概論 B 授業の計画 排泄の文化に着目した地域包括ケアシステムの開発 （略） 第 4 回：排泄の概念、社会的な背景や歴史的変遷、政策、排泄状況に関する研究 第 5 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムの現状と課題 第 6 回：排泄のケアや地域包括ケアシステムに関する研究の意義と研究方法

新	旧
第 7 回：排泄に関する地域包括ケアシステム及び関連分野についてのディスカッション	（新規）
がん医療におけるコミュニティヘルスケア	がん医療におけるコミュニティヘルスケア
（略）	（略）
第 8 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 9 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 10 回：アピアランス問題における看護師の役割と社会連携システムの構築 第 11 回：がん医療におけるコミュニティヘルスケアの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	第 7 回：高齢者におけるがん医療と地域包括システムの課題 第 8 回：皮膚・排泄ケアにおける遠隔看護システムの構築 第 9 回：アピアランス問題と社会連携システムの構築 （新規）
種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題	種々の気象・環境条件下でみられる生活及び健康に関する課題
（略）	（略）
第 12 回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第 13 回：高地での生活における健康管理とその課題 第 14 回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 第 15 回：少子高齢化に係るコミュニティヘルスの今後の課題及び関連分野についてのディスカッション	第 10 回：降雪と積雪が豪雪地帯在住者の生活及び健康に及ぼす影響 第 11 回：高地での生活における健康管理とその課題 第 12 回：離島での生活における健康課題と環境問題の関連性 （新規）
（削除）	地域で生活する高齢者に発生する下肢浮腫が抱える問題 加齢に伴う心機能の低下や活動量の低下により、高齢者は下肢浮腫が発生しやすい状態にある。しかし、介護保険施設や在宅で生活する高齢者の下肢浮腫は適切に管理されていない現状がある。下肢浮腫を例に、日本の医療・介護・福祉分野が抱える問題について考察しそれらを解決する方法を看護理工学分野やモノづ

新	旧
	くりといった多方面から概説する。 第13回：高齢者に下肢浮腫が発生する機序とその管理方法 第14回：高齢者に下肢浮腫が適切に管理されない背景と問題点 第15回：高齢者の下肢浮腫を適切に管理するための新たな方策

【学生確保の見通し・人材需要の社会的動向】

（改善事項）サステイナブルシステム科学研究科　ヘルスケアシステム科学専攻（D）

６．学生確保の見通し等を記載した書類の「１（エ）学生確保の見通し」において、「アンケート調査の結果、社会的な需要などを踏まえ設定しているので、定員充足に問題がないと判断している」としているが、「入学したい」と回答したのは学部生の５名のみで、直接進学することが見込まれるヘルスケアシステムシステム科学専攻（修士課程）の学生、医療施設及び企業の職員は１人も「入学したい」と回答していない。学生確保見通し等を説明した書類（本文）において、学生確保のため、在校生に対する説明会を開催する等の説明があるが、長期的かつ安定的な学生確保の観点から、学生確保方策の更なる充実を図ること。

（対応）

この度のご意見を踏まえ、長期的かつ安定的な学生確保の観点から、「学生の確保の見通し等を記載した書類　第１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況　１　学生の確保の見通し　（オ）学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果」の項へ、学生確保方策の具体的な取り組みについて、外国人留学生に対する学生確保方策の記載を追加した。

また、博士前期課程・博士後期課程学生に対する本学の修学支援制度が、令和６年度より新たに設けられることとなったこと及び修士課程に新入生が入ったことから、前述の修学支援制度案について説明したうえで、あらためて修士課程の在学生（１、２年生）に対し進学希望調査を行った。その結果、入学したいと回答した学生が２名いた。これにより、修学支援制度の充実による学生確保方策について、長期的な学生確保が見込まれる結果となった。上記の進学希望調査のエビデンス資料を含め、調査結果とその分析を学生の確保の見通し等を記載した書類へ追記した。

【資料１：資料５−2 進学意向調査結果（本学在大学院生 ）の概要】

【資料２：資料６−2 公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート調査依頼文】

【資料３：資料７−2 調査票】

【資料４：資料８−2 大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット】

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書類（４～５、８～９、15～16 ページ）

新	旧
（４ページ） **第１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況** **１　学生の確保の見通し** （略）	（４ページ） **第１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況** **１　学生の確保の見通し** （略）

新	旧
（エ）学生確保の見通し **Ａ．学生確保の見通しの調査結果** （略） 本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学学部生（１～４年）及び大学院生（修士課程１年）、石川県、福井県、及び富山県の医療関係施設に勤める医療従事職員と石川県内の企業等に勤める従業員を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウエブアンケート」を実施した（資料１・資料５-1・資料９・資料 13）。大学院生（修士課程）については、令和５年６月に大学院生（修士課程）１年・２年生を対象に再度調査を実施した。（資料５-2）また、本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料 17）。さらに、中長期的な学生確保の見通しを得るため、県内の本学大学院に類似する国公立大学における大学院博士後期課程へ入学状況、大学内部の進学率について調査を行った（参考１）。 【公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート実施概要】 （略） ＜進学意向調査（本学の大学院生）＞（資料５-1）（１回目） 調査対象：公立小松大学の大学院生（ヘルスケアシステム科学専攻 修士課程１年、全４人） 実施時期：令和４年 11 月 回答状況：４人（回答率：100%） ＜進学意向調査（本学の大学院生）＞（資料５-2）（２回目）	**（エ）学生確保の見通し** **Ａ．学生確保の見通しの調査結果** （略） 本学大学院の入学定員を設定するにあたって、入学希望の状況等を把握するため、本学学部生（１～４年）及び大学院生（修士課程１年）、石川県、福井県、及び富山県の医療関係施設に勤める医療従事職員と石川県内の企業等に勤める従業員を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウエブアンケート」を実施した（資料１・資料５・資料９・資料 13）。また、本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意向のアンケート調査を実施した（資料 17）。さらに、中長期的な学生確保の見通しを得るため、県内の本学大学院に類似する国公立大学における大学院博士後期課程へ入学状況、大学内部の進学率について調査を行った（参考１）。 【公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート実施概要】 （略） ＜進学意向調査（本学の大学院生）＞（資料５） 調査対象：公立小松大学の大学院生（ヘルスケアシステム科学専攻 修士課程１年、全４人） 実施時期：令和４年 11 月 回答状況：４人（回答率：100%）

新	旧
調査対象：公立小松大学の大学院生 （ヘルスケアシステム科学専攻 修士課程１年・２年、全７人） 実施時期：令和５年６月 回答状況：７人（回答率：100%） （略） （８ページ） **②本学在学生（大学院修士課程）に対するアンケート調査（資料５-1）** （略） **本学在学生（大学院修士課程）に対するアンケート再調査（資料５-2）** 本学大学院（博士後期課程）の入学定員を設定するにあたり、大学院（博士後期課程）が設置された場合の入学希望状況等を把握するため、ヘルスケアシステム科学専攻の本学大学院生（修士課程）１年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施したが、令和５年度に１年生も入学し、令和６年度より博士前期・後期課程の学生に対する修学支援制度が新たに設けられる予定であるため、修学支援制度の説明も加え、あらためて大学院生（修士課程）１・２年生を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するアンケート」を実施した。 （再調査結果） 本学大学院（博士後期課程）への興味・関心を尋ねる設問（問６）において、回答者（７人）のうち、「大いに興味・関心がある」が５人（71%）、「興味・関心がある」が２人（29%）と、計７人（100%）が興味・関心を示している。 そのうち、ヘルスケアシステム科学専	（略） （追加） **②本学在学生（大学院修士課程）に対するアンケート調査（資料５）** （略） （追加）

新	旧
攻を受験し合格した場合の入学意向を尋ねると(問９)、入学定員１人に対し「入学したい」が２人（29%)、「条件が整えば入学したい」が５人（71%）であり、入学定員を満たす希望者があった。また本学大学院生(修士課程）で、現在、日本臨床工学技士会常任理事または石川県臨床工学技士会長の役職を持ち、医療機関で臨床工学部門長または技師長として若手の臨床工学技士の教育を主導する立場であるために、個人的に直ちに決断できないが、本学大学院（博士後期課程）への進学を強く希望している者もいる。なお、長期的な需要を調査するため、一旦就職した後の大学院（博士後期課程）進学希望について尋ねた設問(問５)においては、「機会があれば進学を希望する」との回答が１人、「就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する」との回答が２人であった。将来的に本学大学院（博士後期課程）へ進学する可能性のある在学院生がいることから、中・長期的な目で見ても、学内からの進学者は一定数確保できるものと考える。また、問７において本学大学院（博士後期課程）について興味・関心があると回答した方（７人）に、興味・ 関心がある理由を尋ねると、「新しい視点からの研究ができそうだから」が３件、「専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから」が５件、「大学院 （博士後期課程)で研究したいテーマがあるから」が１件、「学位（博士）を取得するため」が５件となっており、キャリアアップのための学びや新たな観点による研究に対する需要があることが確認できた。 　また、自由記述欄には、「図書館の利用時	

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>間延長やオンライン受講できる部屋が確保されると嬉しいです。」「外部との連携をとりやすい環境だとうれしいです。」「社会人として、職に就いた状態でも履修が可能な体制を望む。」といった、大学院（博士後期課程）設置を期待する意見や要望があった。

再調査（大学院生）　（資料５-2 抜粋）

<table>
<tr><td>調査学科</td><td>ヘルスケアシステム科学専攻</td></tr>
<tr><td>希望先</td><td>ヘルスケアシステム科学専攻</td></tr>
<tr><td>興味・関心</td><td>７人</td></tr>
<tr><td>受験を希望する</td><td>７人</td></tr>
<tr><td>入学したい</td><td>２人</td></tr>
<tr><td>条件が整えば入学したい</td><td>５人</td></tr>
<tr><td>将来必要があれば入学を検討したい</td><td>０人</td></tr>
<tr><td>入学定員</td><td>１人</td></tr>
</table>

（15 ページ）
Ｆ．その他、申請者において検討・分析した事項
（略）
再調査結果（資料５-2）
あらたに令和５年度在籍の大学院生（修士課程１・２年生）を対象に「公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に関するウエブアンケート」を令和５年６月に実施した（資料５-2）。その調査結果を令和４年 11 月に実施した調査結果（大学院生修士課程除く）とあわせて分析したところ、興味関心を持ち、受験に合格した場合入学したいと回答した者の人数は７人であった。また、11 月に実施した本学の協定校及び共同研究関連校等である海外の大学を対象に入学意</td><td>（追加）
Ｆ．その他、申請者において検討・分析した事項
（略）
（追加）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>新</th><th>旧</th></tr>
<tr><td>向のアンケート調査結果（資料 17）を合わせると、ヘルスケアシステム科学専攻の入学定員１人に対し、入学の可能性がある者は 11 人と推定される。

再調査　（大学院生のみ・大学院生以外は 11 月実施の調査結果）（資料 1, 5-2, 9, 13, 17 抜粋）　単位：（人数）

<table>
<tr><th></th><th>学部生</th><th>大学院生</th><th>社会人医療従事職員</th><th>企業の医療従事職員</th><th>海外協定校</th><th>計</th></tr>
<tr><td>（興味関心→受験希望→入学したい）</td><td>5</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>11</td></tr>
<tr><td>（興味関心→受験希望→条件が整えば入学したい）</td><td>4</td><td>5</td><td>4</td><td>1</td><td>－</td><td>14</td></tr>
<tr><td>計</td><td>9</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>4</td><td>24</td></tr>
</table>

（オ）学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果
本学の大学院（博士後期課程）の学生確保に向け、修士課程からの進学者、社会人学生及び外国人留学生の確保に向けた取組を中心に行っていく予定である。修士課程からの進学者については、新学期のオリエンテーションやガイダンスの際に、本専攻（博士後期課程）の周知を行うほか、在学生向けの説明会を開催し、本専攻（博士後期課程）の教育研究内容について理解を深める場を設け、更に修学支援制度の説明をあらたに加える予定である。社会人学生の確保に関しては、社会人学生の受け入れを促進するため、昼夜開講制度や長期履修学生制度を設けるとともに、入学試験においても社会人選抜を実施する。各人の事情に合わせて大学院で学べるよう、就業しながら通いやすい環境を整えていく。実際に、令和４年度に開設したサステイナブルシステム科学研究科（修士課程）において、オンデマンド授業を活用して多くの社会人学生が夜</td>
<td>

新	旧
間・土曜日に授業を受講し研究指導を受けている。本学大学院（博士後期課程）においても、引き続き柔軟に社会人学生の需要に対応する予定である。さらに、外国人留学生の確保に関しては、本学の協定校等に対して、希望に応じてオンラインでの説明会を開催し、本専攻（博士後期課程）の教育研究内容や修学支援制度について紹介し、留学希望者の確保につなげる。また、本学には留学生が入寮可能な学生寮も整備しており、経済的にも安心して留学できる環境である。 （略）	期課程）においても、引き続き柔軟に社会人学生の需要に対応する予定である。 （略）

公立小松大学大学院(博士後期課程）設置に関するアンケート【本学大学院生対象】
【進学意向再調査結果（本学在大学院生　ヘルスケアシステム科学専攻）の概要】

１　調査概要

（１）調査主体

公立大学法人公立小松大学

（２）調査目的

令和6年4月に予定している「公立小松大学大学院（博士後期課程）」の設置に向けて、公立小松大学大学院（修士課程）ヘルスケアシステム科学専攻の大学院生を対象に、本学大学院（博士後期課程）への進学意向を把握することを目的とする。

（３）主要調査項目

〇公立小松大学大学院（博士後期課程）への現在の進学希望
〇公立小松大学大学院（博士後期課程）への興味・関心理由
〇公立小松大学大学院（博士後期課程）への将来的な進学希望

（４）調査対象

公立小松大学の大学院生（ヘルスケアシステム科学専攻　1年生3人　2年生4人）

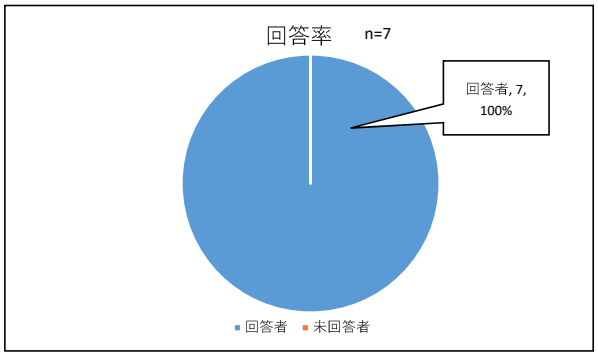
（５）再調査実施時期

令和5年6月

（６）回答状況

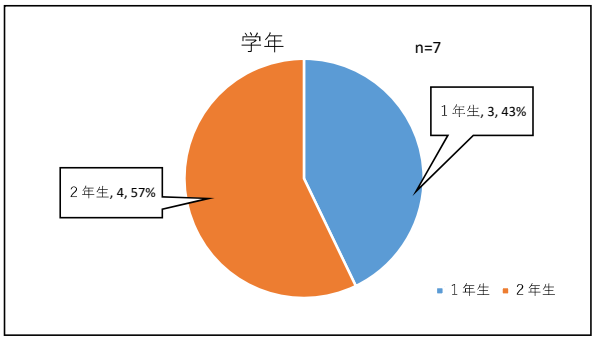
7人（回答率：100%）

アンケート対象（全学生）	7
回答者	7
未回答者	0



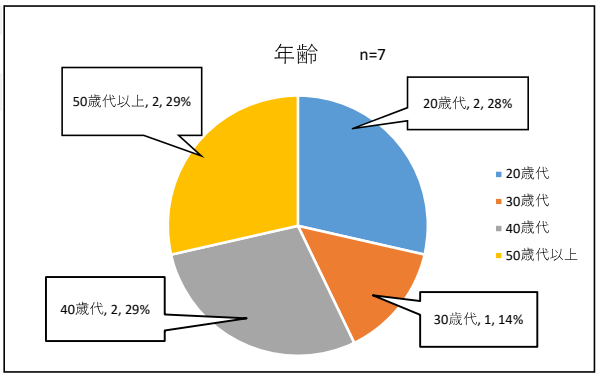
１．学年を選んでください。

１年生	3
２年生	4



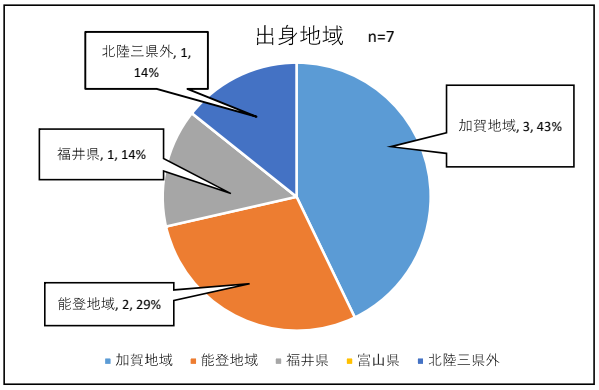
２．あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から1つ選んでください。

20歳代	2
30歳代	1
40歳代	2
50歳代以上	2



3．出身地域を選択してください。

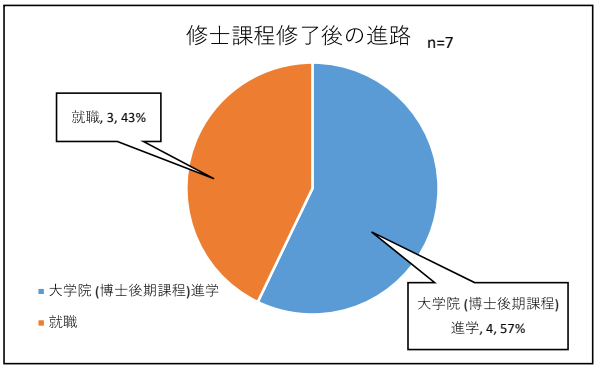
加賀地域	3
能登地域	2
福井県	1
富山県	0
北陸三県外	1



4．本学大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）修了後どのような進路を希望しますか。
次の中から 1つ選んでください。

大学院（博士後期課程）進学	4
就職	3

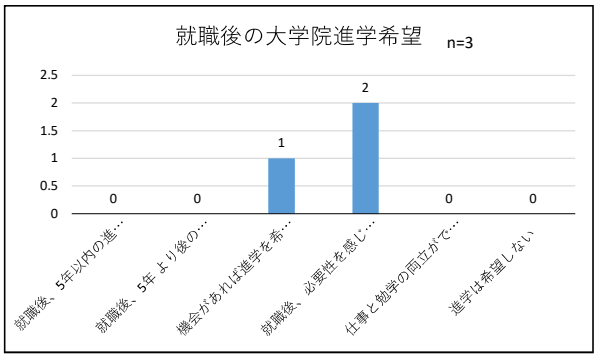
【内訳】
大学院進学　１年生１人、２年生３人
就職　１年生２人、２年生１人



5．就職をした後の大学院（博士後期課程）進学希望についてお尋ねします。次の中から 1つ選んでください。

就職後、5年以内の進学を希望する	0
就職後、5年 より後の進学を希望する	0
機会があれば進学を希望する	1
就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する	2
仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する	0
進学は希望しない	0

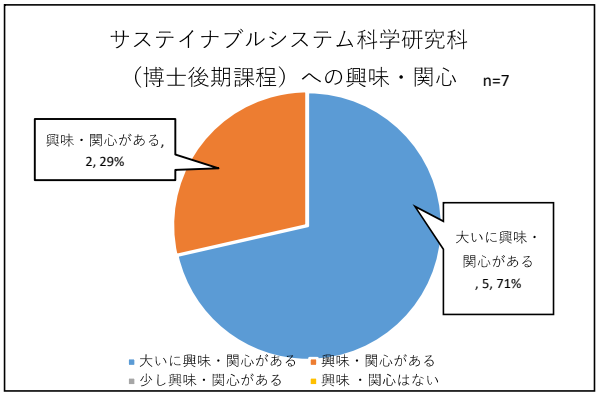
【内訳】
機会があれば進学　１年生１人
必要性　１年生１人、２年生1人



6．令和6年（2024年）4月 に設置予定の公立小松大学大学院サステイナフリレシステム科学研究科（博士後期課程）
についてどのように考えますか。次の中から 1つ選んで ください。

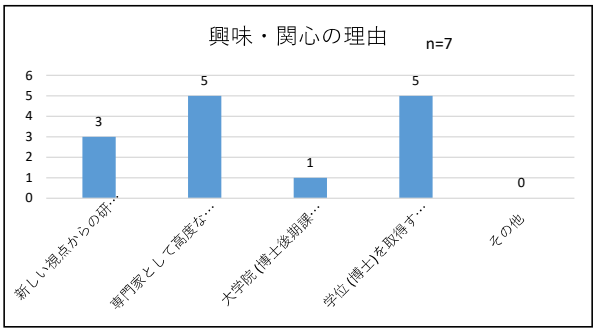
大いに興味・関心がある	5
興味・関心がある	2
少し興味・関心がある	0
興味 ・関心はない	0

【内訳】
大いに　１年生3人、2年生2人
興味　2年生2人



7．「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください 。

新しい視点からの研究ができそうだから	3
専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから	5
大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから	1
学位（博士）を取得するため	5
その他	0



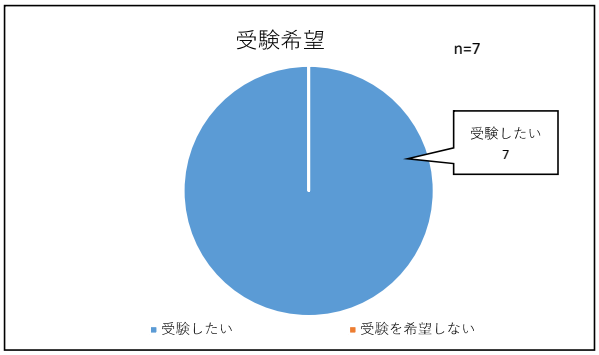
8．本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「ヘルスケアシステム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から１つ選んでください。

受験したい	7
受験を希望しない	0

【内訳】

受験したい

1年3人、2年4人



9．ヘルスケアシステム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から 1つ選んでください。

入学したい	2
条件が整えば入学 したい	5
将来必要があれば入学を検討 したい	0
入学を希望 しない	0

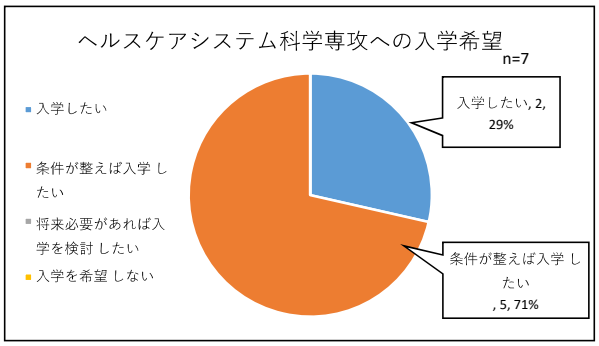
【内訳】

入学したい

1年1人、2年1人

条件整えば

1年2人、2年3人



10．「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から 1つ選んでください。

平日昼間の時間帯	1
平日夜間の時間帯	4
休日昼間の時間帯	0
夏季集中	0
その他	2

【内訳】

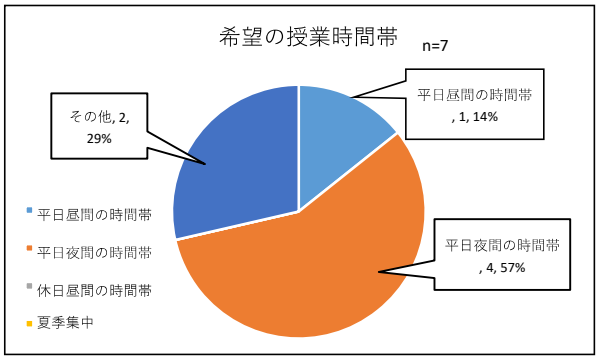
平日昼間　1年1人

平日夜間　1年2人、2年2人

その他　　2年2人

・対面授業であれば平日夜間のみ

・WEB等の活用

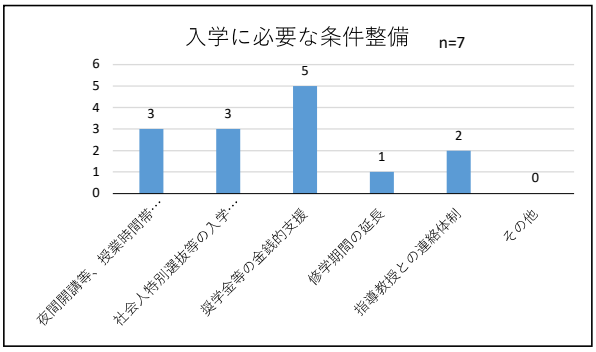


11. 「 入学したい 」 「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい 」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で 、どのような条件整備が必要とお考えですか 。次の中から2つまで選んでください。

夜間開講等、授業時間帯の工夫	3
社会人特別選抜等の入学試験	3
奨学金等の金銭的支援	5
修学期間の延長	1
指導教授との連絡体制	2
その他	0

【内訳】

夜間開講	2 年3人
社会人選抜	1 年1人、 2 年2人
奨学金	1 年3人、 2 年2人
修学期間延長	2年1人
指導教授	1年2人



12. 「公立小松大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

1．図書館の利用時間延長やオンライン受講できる部屋が確保されると嬉しいです。

2．外部との連携をとりやすい環境だとうれしいです。

3．社会人として、職に就いた状態でも履修が可能な体制を望む。

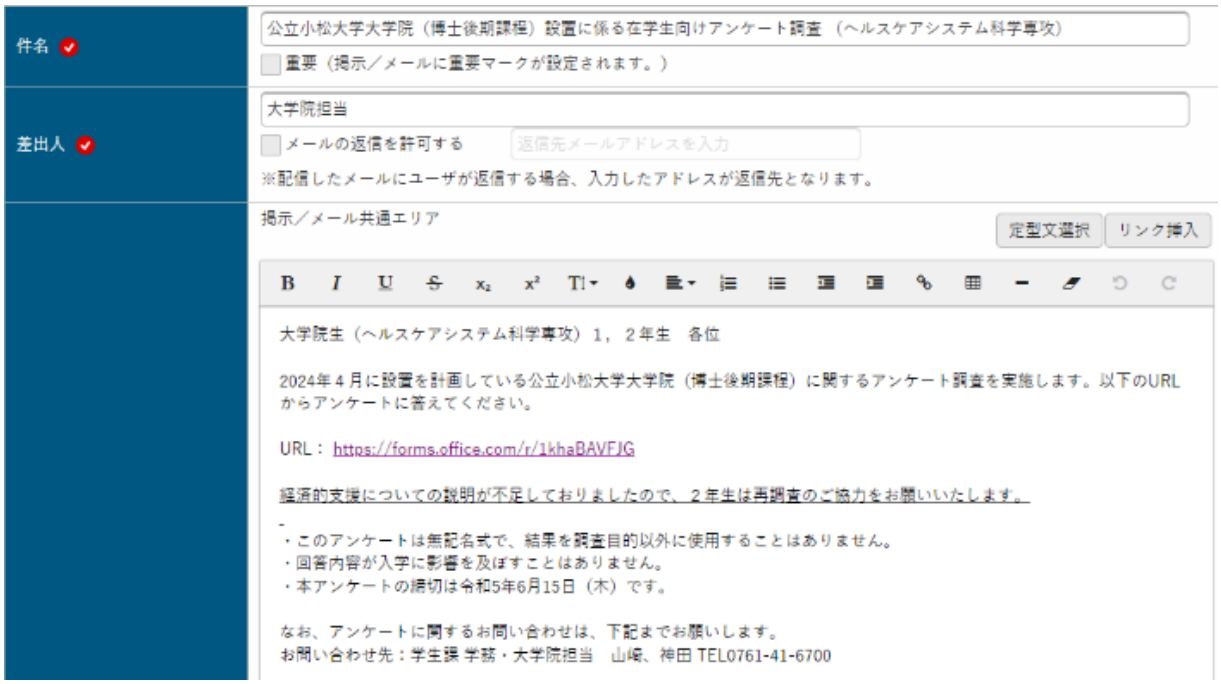
大学院生用ポータル依頼文

件名：公立小松大学大学院（博士後期課程）設置に係る在学生向けアンケート調査
　　（ヘルスケアシステム科学専攻）
内容：
大学院生（ヘルスケアシステム科学専攻）１，２年生　各位
2024 年 4 月に設置を計画している公立小松大学大学院（博士後期課程）に関するアンケート調査を実施します。以下の URL からアンケートに答えてください。

URL： https://forms.office.com/r/1khaBAVFJG

経済的支援についての説明が不足しておりましたので、２年生は再調査のご協力をお願いいたします。
・このアンケートは無記名式で、結果を調査目的以外に使用することはありません。
・回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。
・本アンケートの締切は令和 5 年 6 月 15 日（木）です。

なお、アンケートに関するお問い合わせは、下記までお願いします。
お問い合わせ先：学生課 学務・大学院担当　山崎、神田 TEL0761-41-6700



（ポータルサイトによる依頼文配信画面）

(大学院生用）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査　（ヘルスケアシステム科学専攻）

ヘルスケアシステム科学専攻の在学生（1，2年生）を対象に、2024年4月に設置を計画している公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）に関し、以下のアンケートを実施します。ご協力をお願いします。回答内容が入学に影響を及ぼすことはありません。アンケートに関するお問い合わせは大学院担当 山崎、神田までお願いします。

* 必須

あなたの学年をお尋ねします。

1. 学年を選んでください。 *

- ○ 1年生
- ○ 2年生

2. あなたの年齢についてお尋ねします。次の中から１つ選んでください。 *

- ○ 20歳代
- ○ 30歳代
- ○ 40歳代
- ○ 50歳以上

3. 出身地域を選んでください。 *

- ○ 加賀地域（小松市、加賀市、能美市、川北町、白山市、野々市市、金沢市、かほく市、内灘町、津幡町）
- ○ 能登地域（羽咋市、七尾市、宝達志水町、中能登町、志賀町、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
- ○ 福井県
- ○ 富山県
- ○ 北陸3県以外

次へ

(大学院生用）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置に関するアンケート調査（ヘルスケアシステム科学専攻）

* 必須

修士課程修了後の進路希望および設置計画中の公立小松大学大学院（博士後期課程）についてお尋ねします。

以下のサステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）設置構想リーフレットをご覧の上、ご回答ください。
URL：https://www.komatsu-u.ac.jp/graduate_school_plan.pdf

4. 本学大学院サステイナブルシステム科学研究科（修士課程）修了後どのような進路を希望しますか。次の中から１つ選んでください。 * 選択を解除

- ○ 大学院（博士後期課程）進学
- ◉ 就職

5. 就職をした後の大学院（博士後期課程）進学希望についてお尋ねします。次の中から１つ選んでください。 *

- ○ 就職後、5年以内の進学を希望する
- ○ 就職後、5年より後の進学を希望する
- ◉ 機会があれば進学を希望する
- ○ 就職後、必要性を感じた場合は進学を希望する
- ○ 仕事と勉学の両立ができれば進学を希望する
- ○ 進学は希望しない

6. 令和6年（2024年）4月に設置予定の公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）についてどのように考えますか。次の中から１つ選んでください。 *

- ○ 大いに興味・関心がある
- ◉ 興味・関心がある
- ○ 少し興味・関心がある
- ○ 興味・関心はない

7. 「大いに興味・関心がある」「興味・関心がある」「少し興味・関心がある」と回答された方にお尋ねします。それは、どのような理由からですか。次の中から2つまで選んでください。 *

2 個のオプションを選択してください。

- [ ] 新しい視点からの研究ができそうだから
- [x] 専門家として高度な知識・技術を身につけられそうだから
- [x] 大学院（博士後期課程）で研究したいテーマがあるから
- [ ] 学位（博士）を取得するため
- [ ] その他

8. 本学に大学院（博士後期課程）が設置された場合、「ヘルスケアシステム科学専攻」を受験したいと考えますか。次の中から１つ選んでください。 *

- (●) 受験したい
- ( ) 受験を希望しない

9. ヘルスケアシステム科学専攻に合格した場合、入学したいと考えますか。次の中から１つ選んでください。 *

- (●) 入学したい
- ( ) 条件が整えば入学したい
- ( ) 将来必要があれば入学を検討したい
- ( ) 入学を希望しない

10. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。どのような時間帯に授業を履修したいとお考えですか。次の中から１つ選んでください。 *

- (●) 平日昼間の時間帯
- ( ) 平日夜間の時間帯
- ( ) 休日昼間の時間帯
- ( ) 夏季集中
- ( ) その他

11. 「入学したい」「条件が整えば入学したい」「将来必要があれば入学を検討したい」と回答された方にお尋ねします。職に就いたままで大学院に入学する上で、どのような条件整備が必要とお考えですか。次の中から２つまで選んでください。 *

2 個のオプションを選択してください。

- [x] 夜間開講等、授業時間帯の工夫
- [ ] 社会人特別選抜等の入学試験
- [x] 奨学金等の金銭的支援
- [ ] 修学期間の延長
- [ ] 指導教授との連絡体制
- [ ] その他

12. 公立小松大学大学院（博士後期課程）の設置計画について、ご意見･ご要望がございましたら、ご自由にお書きください

回答を入力してください

戻る　送信

大学院（博士後期課程）設置構想リーフレット

（仮称）公立小松大学大学院サステイナブルシステム科学研究科（博士後期課程）
・生産システム科学専攻　・ヘルスケアシステム科学専攻　・グローカル文化学専攻

令和６年（２０２４年）４月設置予定

※設置構想中のため、掲載内容は予定であり、変更する場合があります。

●概　　要

設置年月：令和６年（２０２４年）４月予定
設置場所：石川県小松市四丁町ヌ１番地３（本部）
名　　称：サステイナブルシステム科学研究科　生産システム科学専攻（博士後期課程）
　　ヘルスケアシステム科学専攻（博士後期課程）　グローカル文化学専攻（博士後期課程）
修業年限：３年　入学時期：４月
定　　員：生産システム科学専攻　２名、ヘルスケアシステム科学専攻　１名、グローカル文化学専攻　１名
学　　位：博士（工学）、博士（保健学）、博士（国際文化学）

●設置の理念

本学が立地する地域の諸問題の解決への道筋を探求すると同時に、日本及び世界の各地域に普遍的に存在する諸課題を抽出し、各専攻分野に固有な専門的方法論を駆使し、それらの分析と解決への方向性を提案し、地域と国際社会の持続的発展に貢献しうる高度専門人、教育研究者、組織的指導者の育成を目指し、教育研究を推進する。

●養成する人材像

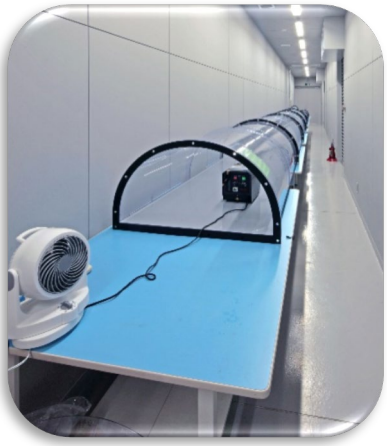
「課題発見解決能力、社会実装力を備えた次世代人材」、「地域産業の高度化、地域発イノベーション等を担う高度人材」、「未来を支える教育者、研究者、組織指導者」、「『総合知』に立脚し、高度な専門能力を備えた人材」などの人材を育成し、「地域・国際社会へのサステイナビリティへの貢献」をめざす。

●教育研究の特色

①養成する人材像　②開講予定科目　③想定される修了後の進路

・生産システム科学専攻〔 学位：博士　（工学）　〕

①持続的な社会の創造に対する意識および、サプライチェーンの不確実性などの社会情勢の変化に対する関心を常に持ちながら「ものづくり」による社会貢献を達成することが重要である。その下で「ものづくり」についての課題を見出し、専門的および学際的学識を修得して持続可能な社会に貢献する製品やシステムの研究、開発、生産プロセスの構築など、多様な方面で活躍できる人材育成をめざす。
②「環境熱流体解析学特論」、「先端製造テクノロジ特論」、「最適構造制御特論」、「先進 IoT・AI 特論」、「システム情報科学特論」
③製造業、エネルギー・材料関連産業、建設業、自動車・交通関連産業、高等教育研究機関、企業等研究所、地方公共団体・行政機関、研究職、設計開発職、生産管理職、大学教員、行政専門職など。


「トンネル火災実証実験室」

・ヘルスケアシステム科学専攻〔 学位：博士（保健学）　〕

①持続的に発展できるコミュニティ　ヘルスケアを構築するために、健康と福祉に関する知識や研究能力を活用しかつ他分野の専門家とも積極的に協働していくことで、コミュニティヘルスケアに関する現存の課題の解決策を提案していける高度専門職業人、研究者、および大学教員の育成をめざす。
②「コミュニティ　ヘルスケア概論Ａ」、「コミュニティ　ヘルスケア概論Ｂ」、「コミュニティ　ヘルスケアとユビキタス医工学特論」、「医療と多文化共生特論」
③保健福祉機関、病院、介護・リハビリテーション施設、医療機器・介護支援ハード&ソフトウェアメーカー、国際保健医療機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、看護師、臨床工学技士、システム開発者、メディカル・リプレゼンタティブ（MR）、大学教員、行政専門職、研究者、医療施設の経営者など。

「人工心肺装置」

・グローカル文化学専攻〔 学位：博士（国際文化学） 〕

①南加賀および北陸に軸足を置き、アジアを中心とした国際文化研究と連動させ、専門知識の深化と普遍的な思考、さらには分野を超えた専門的なスキルを有する人材を社会に送り出す。同時に、地域・国際課題を発見し、それを横断的・複眼的な視座から解決を試み、エシカルな行動様式を意識しながら、地域を活性化できる人材育成をめざす。

②「南加賀・北陸文化資源特論」、「国際文化学特論 A」、「国際文化学特論 B」、「グローカル文化学特論 A」、「グローカル文化学特論 B」

③情報産業、流通・製造業、総合商社、観光・旅行業、航空・交通業界、金融機関、マスコミ・出版関係企業、文化資源関係機関、国際機関、高等教育研究機関、地方公共団体・行政機関、国内外ビジネスパーソン、国際機関職員、起業家、ツアープランナー、通訳、大学教員、行政機関の専門職など。

「ティカル遺跡（グアテマラ）」

●社会人に対する配慮

本研究科博士後期課程では、仕事に従事しながら学修を望む方への学修機会の提供を目的とし、社会人学生を積極的に受け入れています。長期履修学生制度及び昼夜開講制度を設け、在職のまま学びやすい環境を整えています。

・修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することができ、在職のまま学びやすくなるよう配慮します。（長期履修学生制度）

・大学院設置基準第１４条に規定する教育方法の特例に基づき、夜間等に履修できるように配慮します。（昼夜開講制）

●学生納付金（予定）

入学料：（市内者）282,000 円、（その他）423,000 円　　授業料：（年間）　585,800 円

※授業料減免・奨学金制度もあり

※博士後期課程学生に対する修学支援制度を予定している。

●競合する研究科の名称等

本研究科と類似する近隣大学院博士後期課程の納付金

生産システム科学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	自然科学研究科	自然システム学専攻	282,000 円	535,800 円
金沢工業大学大学院	工学研究科	機械工学専攻 情報工学専攻 電気電子工学専攻	250,000 円	1,011,000 円
北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	先端科学技術専攻	282,000 円	535,800 円

ヘルスケアシステム科学専攻

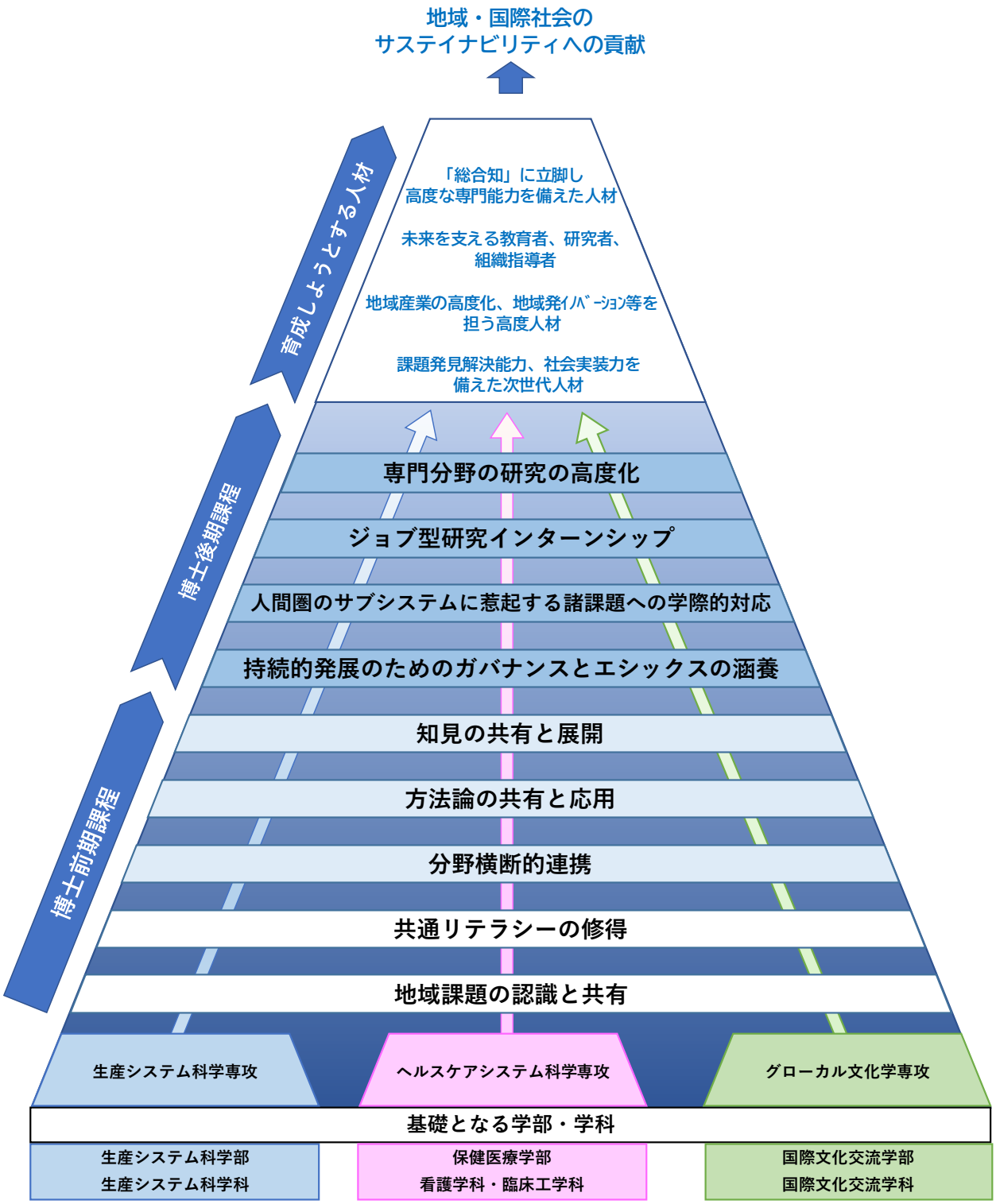
大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	医薬保健学総合研究科	保健学専攻 医学専攻	282,000 円	535,800 円
石川県立看護大学大学院	看護学研究科	看護学専攻	（県内）282,000 円 （県外）423,000 円	535,800 円

グローカル文化学専攻

大学院名	研究科名	専攻名	入学金	授業料等
金沢大学大学院	人間社会環境研究科	人間社会環境学専攻	282,000 円	535,800 円

●設置場所（アクセス）

・粟津キャンパス　石川県小松市四丁町ヌ１番地３　（JR 粟津駅より徒歩で約 12 分）
・末広キャンパス　石川県小松市向本折町へ 14 番地１　（JR 小松駅より徒歩で約 23 分）
・中央キャンパス　石川県小松市土居原町 10-10　（JR 小松駅より徒歩で約１分）



サステイナブルシステム科学研究科博士課程における教育課程編成の考え方